

同窓会だより

信州大学医学部保健学科同窓会事務局
School of Health Sciences, Shinshu University
第9号 2011年10月



—目次—

保健学専攻博士後期課程の完成年度を迎えて	2
学長挨拶	3
「同窓会だより」によせて	4
新入教員のご挨拶	5
カーティン工科大学短期留学	6
平成22年度活動報告	8
総会記録	10
平成22年度事業報告	11
平成22年度医学部保健学科同窓会決算書	12
平成23年度事業計画	13
平成23年度医学部保健学科同窓会予算書	14
同窓会役員	15
信州大学医学部保健学科同窓会会則	15
編集後記	16

2011
第9号

大学院医学系研究科保健学専攻博士後期課程の完成年度を迎えて

信州大学医学部保健学科同窓会会長 川上 由行
(検査技術科学専攻 病因病態検査学講座 教授)

2011年4月、保健学科9期生と同時に大学院医学系研究科保健学専攻博士前期課程5期生と後期課程3期生を迎えました。新入生の皆さん、入学おめでとうございます。大学や大学院での日々は、長い人生の中では極めて短いですが、人間の一生の方向性を決定する重大な時期でもあります。皆さんが入学した医学部保健学科／大学院保健学専攻で、若い情熱を燃やしなから、全力投球での毎日をご過ごして下さい。やる気と積極性の日々の中にのみ、十分な実力と確かな基礎学力が保障されるのです。

新入生のみならず在校生の皆さん、人生に於ける大切な大学／大学院生活を悔いなく思う存分に謳歌して下さい。多感な青年期の日々を過ごす大学／大学院生活は実に貴重です。この大事な時間を有意義に過ごして下さい。密度の濃い日々を送って下さい。そして、生涯にわたる良き友人を得て下さい。実り多い大学／大学院生活にさせていただけるよう、保健学科同窓会は精一杯の情熱で皆さんを応援させていただきます。

さて、今年が大学院博士後期課程の完成年度に当たります。愈々、保健学の博士の学位授与者が排出されます。後期課程の最終年度に当たる院生諸君は、大学院と学部の違いを肌で感じたことと思います。研究テーマを自ら設定し、その解決手法を自ら探索し、問題解決を図って得られた成果を世界に向けて発信する、と言う一連の得難い経験をされたことと思います。研究には、何らかの意味でオリジナリティーが求められる、と言うことも身を以て体験されたでしょう。彼等の学位取得後の活躍こそが、保健学の確固たる確立に直結するのです。そして、そんな有能な後期課程修了生を排出するためにも、保健学科同窓会は院生の研究環境の充実へ向けて出来る限りの応援をしていきます。

今年2011年です。1が2つも並びました。1が並ぶとあまり良いことがないと言う人がいます。確かに、アメリカ同時多発テロ事件も9.11でした。今年3月の東日本大震災



も3.11でした。焼肉チェーン店での生肉のユッケに起因する集団食中毒も、大腸菌O-111で何と1が3つも重なりました。2011年11月11日は1が6つも連なりますが無事に過ぎて欲しいです。

さて、来年2012年は、保健学科が設立されて10年目です。ということは、保健学科同総会設立10周年の節目の年になります。新たな10年へ向けての確かな一歩を踏み出す年にしたいものです。



信州大学医学部保健学科同窓会会報 学長挨拶

信州大学 学長 山沢 清人

信州大学医学部保健学科同窓会の皆様には、平素より信州大学の教育研究にご支援を賜り、誠にありがとうございます。東日本大震災、長野県北部地震、福島第一原発事故という大災害が次々に発生し、6月末の松本市の地震を含め、日本各地で地震や大雨等による被害が続きました。被害に遭われました皆様方にお見舞い申し上げますとともに、犠牲になられました方々のご冥福を心からお祈り申し上げます。信州大学では、お陰様で学生や教職員、そして各キャンパスの施設等には直接的な被害を蒙ることなく、全員揃って平成23年度を迎えることができ、授業や大学行事等を当初の予定どおり行えましたことを、何よりもありがたく思っております。保健学科同窓会の皆様の中には、災害の現場や後方で支援にあられた方も多いのではないのでしょうか。皆様のご尽力に改めて感謝申し上げます。

さて、東日本大震災と原発事故を境に、世界は大きな変革期に突入しました。現代の私達の生活を支える巨大で高度化した科学技術による社会システムを安全に運用し、管理するためには、幅広い教養と高度なスキルをもつ人材が不可欠です。しかも、一部の専門家やリーダーに他人任せにすることなく、国民一人ひとりが当事者として市民目線で社会づくりに参加していかなければならないことを再認識させられました。また、今回の災害に「想定外」という表現がよく用いられるように例外が頻発したり、大量消費型から省エネルギー型への急速な転換を迫られるなど、従来の思考や価値観の見直しも求められました。新しい社会づくりには、科学技術に人間の知恵や経験を融合させ、協力しあって自分自身の役割を果たしていく必要があります。

これは、チーム医療を担う保健学科の領域にも通じるのではないのでしょうか？日々進歩する医療の技術と知識による裏付け、経験、チーム内コミュニケーション等によっ



て、全角的視野から最善策を導き、自身の役割を全うするこの姿勢は、今後は社会の様々な場面でも求められるはずで、「絶対」ではなくても、「より」安全で安心な社会の実現のための能力を身につけられるよう、信州大学では、文系/理系8学部を擁する総合大学の特色を生かし、文理融合型の教育研究を一層進めて人材を育成してまいります。保健学科の学生達には、医療のみならず、社会のリーダーとしても活躍してほしいと願っております。

信州の「知の森」が明るい未来の礎となるよう、大学をあげて努めてまいりますので、保健学科同窓会の皆様には、ますますのご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



「同窓会だより」によせて

信州大学医学部保健学科同窓会名誉会長 寺田 克
(信州大学医学部保健学科長／看護学専攻 成人・老年看護学講座 教授)

このたび市川元基教授より引き継ぎ、本年4月1日付けで信州大学医学部保健学科長に就任した寺田です。同窓会の皆様にご挨拶の機会を設けていただきましたことに感謝いたします。

私は昭和56年に大学を卒業し、信州大学医学部附属病院に入職しました。県内外の幾つかの病院での研修・勤務を経て、平成16年4月より保健学科で教鞭をとっております。外科、集中治療部・救急部の勤務経験より、外科系病態生理、救命・蘇生、災害医療、画像診断などを中心とした講義・演習を行っています。

本年3月11日に発生した東日本大震災ならびに12日の長野県北部地震で被災された皆様には心からお見舞い申し上げます。本学科でも被災地ならびに近隣の地域に自宅のある在校生・新入生、さらに被災地に旅行中の在校生がおりましたが、幸いなことに直接的な人的被害がなく、入学式の開催、新学期開始を無事に向かえることができ、大変喜ばしく思っています。しかし慢性的な国の財政悪化に追い討ちをかけ、今後国から大学への交付金のさらなる減少が確実視されています。また国立大学の独立法人化以降、おりにつけ受益者負担の原則から授業料の値上げやむなしとの議論がなされていますが、経済的な理由に伴う休学者や退学者が本学をとわず全国的増えている状況にあります。このような中で同窓会の皆様には、在校生に対する教育支援や学科の運営補助にたくさんのご配慮をいただいております。この場をお借りし心から御礼申し上げます。

本年度これまでに援助していただいたものだけでも、学生の課外活動の一環として行われている新入生合宿研修、市民公開講座として伊藤英樹氏（宅老所「井戸端げんき」代表）をお招きし開催された特別講演会、入試広報活動の一部として行われているオー

ブンキャンパス、学生に国際的な視野を持ってもらうために実施しているカーティン大学短期留学プログラムなど、数多くあげることができます。また本年度は大学院医学系研究



科保健学専攻の博士後期課程で初めての卒業生を送り出すこととなりますが、ここでも学習環境の整備補助を含め、たくさんのご支援をいただいております。

保健学科長の任期は3年ですが、この間同窓会との連携をこれまで以上に深め、信州大学医学部保健学科ならびに医学系研究科保健学専攻の教育の質を落とすことなく、さらに発展させて参りたいと思います。皆様方より一層のご支援とご指導を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。



新入教員のご挨拶

自己紹介

近藤 由香

(看護学専攻 成人・老年看護学講座)

4月からお世話になっております成人看護学の近藤と申します。私は今まで臨床では主に内科病棟、緩和ケア病棟を経験してきました。また主に実施してきた研究は、がん患者さんに対して漸進的筋弛緩法（リラクゼーション法）を導入する研究、緩和ケアに関する研究です。現在は、ホリスティックタッチのセラピストの資格をとるための研修を受けております。



今後がん患者さんや家族に対してリラクゼーション法やマッサージ法などの代替療法を実施し、がん患者さんや家族の苦痛の緩和に貢献できる研究を継続していきたいと考えています。また、学生さんと共に学ぶ姿勢を持ち続けていきたいとも思っております。

美しく自然豊かな松本で頑張っていきたいと思いますので皆様のご指導をよろしくお願いいたします。

自己紹介

高橋 理沙

(看護学専攻 広域看護学講座)

本年度4月より、看護学専攻広域看護学講座に着任した精神看護学の高橋理沙と申します。東京(清瀬市)にある国立看護大学校を卒業後、国立精神・神経医療研究センター病院の医療観察法病棟にて臨床を積んでおりました。心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った対象者の看護をする中で、苦しいこともありましたが、改めて精神科の楽しさ・奥深さを感じる事が出来ました。今年の3月に、筑波大学大学院博士前期課程を卒業し、現在本学医学系研究科保健学専攻に在学中です。仕事と大学院の両立に悪戦苦闘しながら、日々過ごしております。出身は北海道(札幌市)で、その後埼玉・東京都内を転々としており、松本で暮らすのは初めてです。引っ越してきて半年近く経ち、ようやく松本の暮らしにも慣れてきたところですが、3月の引っ越し前日に運転免許を取得し、現在も若葉マークを付けて松本の街を闊歩して



おります。美味しいお蕎麦屋さんと秘湯をめぐるのが大好きです。皆様のおすすめがありましたら、ぜひお教えいただけたいと思います。学生と接する中で、自分自身も日々成長していきたいと思っております。今後とも皆様のご指導のほど、宜しく願い申し上げます。

自己紹介

西川 良太

(理学療法学専攻 基礎理学療法学講座)

本年度より理学療法学専攻所属となりました、西川良太と申します。

大阪出身で、2000年度に信州大学人文学部に入学し、その後理学療法士になることを目指して勉強し直し、2005年度に信州大医学部保健学科の3期生として入学しました。卒業後は、昨年度まで信州大学医学部附属病院リハビリテーション部に所属し、理学療法士として働いておりました。臨床経験はわずか2年とまだまだ未熟者ですが、逆に考えると、学生だった頃が近いとも言えます。自分の学生時代の記憶がまだ新しいことを活かし、学生の時に感じていたことや、実際に臨床で働いて気づいたこと、「もっと学生時代にこうしておけば良かった」と感じたことなど、学生に伝えていければと考えています。



また今年度より信州大学大学院医学系研究科博士前期課程において研究を始められることとなりました。研究分野はまだ明確ではありませんが、運動制御・運動学習について、そしてそれらを小児の理学療法で活かせるような研究をしたいと考えています。教育・研究・臨床と行う中で不安もありますが、ここ保健学科の卒業生として、先輩・同期・後輩とも交流していき、頑張っていきたいと思っております。今後ともよろしくお願い致します。

カーティン工科大学短期留学

Curtin Programに参加して

看護学専攻 3年 中村由紀子



私がこのCurtin Programについて初めて知ったのは、高校2年生の時だった。海外で英語や看護の勉強が出来るという内容は当時の自分にとってとても魅力的に感じられ、「この大学に入学できたら絶対に参加しよう」と考えていた。このため実際にオーストラリアに行けたことはとてもうれしく、また良い経験となった。

Curtin大学での3週間は、1週目が主にEnglish Class、2週目以降は各専門分野の先生方による講義や演習への参加、施設・病院見学と毎日が充実していた。最初は英語の授業という事に緊張していたが、先生方が分かりやすい英語で説明してくれたため授業も演習も理解しやすかった。私が特に興味を持ったのはアボリジニの文化とヘルスケアについてで、実際にアボリジニの方が来て講義して下さったときには様々なお話を聞くことができるとても楽しかった。日本にはないオーストラリア特有の文化であり、それ故複雑な医療問題を抱えているのだということを知ることができた。

休日はPerth CityやFremantle、Rottnest Islandなどで観光や買い物を楽しんだ。特にFremantleは歴史的な建物や大きな土産物店、市場などが立ち並び、歩きながら眺めているだけでワクワクするような活気のある場所であった。また、フィッシュアンドチップスなどを始めいろんな国や種類の飲食店があり、週末には買い物をしながら皆で食べ歩きをするなど、オーストラリアを目一杯満喫することが出来た。

出発前は「3週間も英語で生活できるのだろうか…」と不安に思う事もあったが、実際に行ってしまうと日常生活の中で英語を体験しながら新しい文化や発見を楽しむことができる、あっという間の3週間だった。

今回の留学を通して強く感じたのは、オーストラリアは様々な文化や人種が混在しているが、自分のルーツや文化に誇りを持ち互いを尊重しながら生活しており、またそれを楽しんでいるということだった。オーストラリアでの留学体験を通して、大学生活中や社会人になってからも新しい経験や出会いを楽しむ姿勢を持ち、より多くのことを学ぶ機会を作っていければと思った。

Curtin Programに参加して

検査技術科学専攻 3年 笹岡 静香

パースでの3週間は、日々新鮮で充実したものでした。

ホームステイでは、ただの海外旅行では経験し得ないような海外の人との関わり方や、その国の文化、生活習慣を実際に身近で経験することができました。食事のスタイル、冷蔵庫や食糧庫の中身、お皿の洗い方、洗濯機の機能など、日常生活は発見の連続でした。私のホストファミリーは共働きのご家庭でしたが、平日でも夕方には帰ってきて夫婦一緒に夕食を作っているのがとても印象的でした。中学生の息子はテレビゲーム三昧でこの点は日本と同じだと思いました。英語でのコミュニケーションはとても苦労しましたが、会話が成り立った時の喜びは格別でした。英語力の乏しい私がこんな風に会話を楽しめたのは、ホストファミリーの優しさ、温かさのおかげだと思います。ホストファミリーは、私の拙い英語を理解しようといつも努力してくれていて、私が理解できずにいると同じ事を繰り返し説明してくださいました。上手くやりとりできた時の喜びと伝えきれない時のもどかしさから、もっと英語を勉強したくなりました。

カーティン大学では、英語の授業を嘗てない程真剣に受け、医療の授業ではオーストラリアの抱える医療問題について知ることができました。アボリジニについての講義もあり、アボリジニの女性が時折歌ををさんだりしながらアボリジニの生活、文化について話して下さりとても興味深く貴重な時間でした。また、カーティン大学の日本語クラブの学生と話す機会があり、いろんな国から来ている年代と喋ることができました。施設見学では赤十字の献血センターや検査室へ行きました。献血センターでは送迎車で人がセ

ンターに集められるシステムに驚き、検査室では白衣や手袋を使用していないスタッフが多い点に驚きました。他にも、今まで見たことのない自分の専攻以外の施設も見学し、他の専門について知る良い機会になりました。

今回の留学で、オーストラリアの文化、医療について多くのことを学んだと同時に、日本の文化、医療についても改めて考えさせられました。オーストラリアでの三週間は本当にあつという間に過ぎてしまいましたが、そこで得られたものはとても大きく、今後私の人生の糧となってくれると思います。このプログラムに参加できて本当に良かったです。このプログラムを支えてくださった多くの方々に心から感謝しています。

短期留学を終えて

理学療法学専攻 2年 古池 美穂

私は自分の視野をもっと広げたくてこのCurtin大学の短期留学プログラムに参加しました。個人的に海外留学をすることはとても不安でしたが、保健学科が推進しているプログラムということで最終的に参加することに決めました。

ホームステイは初めての経験で、慣れない環境と英語ばかりの生活に苦労もたくさんあり、コミュニケーションの難しさと大切さ、さらに言葉が通じたときの喜びを同時に知るといっても貴重な経験をすることができました。また日本とは全く異なる文化を肌で感じることもできました。自分の知らない世界や考え方がこれほど多く存在していることに驚きを感じ、自分の知識の無さや視野の狭さを実感しました。

約3週間のプログラムの中にはCurtin大学の理学療法学専攻の学生とともに、講義を受けることのできる機会がありました。その講義ではオーストラリアと日本の理学療法のシステムや授業形態、規模の違いに驚きました。また学生が授業を真剣に受ける姿や、積極的に質問をして理解を深めようとする姿勢も見ました。さらに、Curtin大学の理学療法学専攻に編入した日本人の学生の方にお会いすることもできました。彼らと話す中で、彼らの中の熱意に触れ、理学療法のやりがいや楽しさ、可能性などを再認識することができました。私はこのプログラムに参加する以前とは違っ

た視点とより強い気持ちで新しい目標を見つけることができ、日本で受ける講義の一つ一つをもっと大切にしようと思うようになりました。

今回プログラムで、英語の大切さを何よりも感じました。オーストラリアに滞在していた間、自分の気持ちや、本当に伝えたいことがなかなか上手く伝えることができず、とても苦労しました。また英語は、自分の世界を広げてくれる武器になるものだという印象も受けました。この経験を活かし、自分の英語力をもっと高めたいと思います。

最後になりますが、今回このプログラムに参加された信州大学、Curtin大学の教員の皆様、ホストファミリー、ご協力してくださったすべての方々に心から感謝を申し上げます。素晴らしいプログラムを本当にありがとうございました。

Curtin 大学夏期海外単位認定プログラム

作業療法専攻 2年 木戸 雄介

私は今回、信州大学の医学部保健学科のプログラムであるカーティン大学夏期単位認定プログラムに参加させていただきました。私は前から英語が好きで海外にも興味があり、また自分の習ってきた英語で会話してみたいという気持ちもあって海外へいくという不安も少なからずありましたが、このプログラムへの参加を決めました。

実際にオーストラリアに行ってみると大きな発見が二つほどありました。まず一つ目は学校で習ったような難しい文法表現でなくても気持ちで言いたいことは伝えられるのだということです。私が初めてホストマザーに出会って会話をした時は私が言いたいことを



言う時に文法表現に頼り過ぎていたために一文を言うだけでも考えてしまい、会話が滞ることも多くありました。それでも、ホストマザーは私にゆっくりと話しかけてくれたり、こちらが話すのが遅くてもジェスチャーを使ったり、出来るだけシンプルな英文を多用することでなんとか会話をすることが出来ました。また、私はオーストラリアのパースで有名な観光地であるロットネスト島という島へ行ったのですが、ホストマザーもその場所のことはよく知っていたため、共有できるものが出来たためかその日の晩の夜はとても楽しく会話が出来、そこからあちらの人たちの英語も全て聞き取れはしなかったけれども何が言いたいのかぐらいは分かるようになり、会話することが楽しいと感じることが出来ました。

二つ目の発見はあちらの人たちの積極性です。それを感じたのはあちらの大学の授業を受けた時でした。カーティン大学の生徒たちは授業の中で教授が何かの問いを提示したりすると多くの人が積極的に手を挙げて自分の意見をはっきりと述べていて、私が普段、日本で受けているような手を挙げるだけでも少し遠慮気味になっている人が多いような授業とは大きく違って驚きました。

私は今回の留学で会話は文法などに頼るのではなく伝えやすくしようという工夫や気持ちが何よりも大事なのだということやあちらの人たちの授業の姿勢を見て、恥ずかしがらずに積極的に自分の意見を言うことの大切さを学べたような気がします。また自分の専攻である作業療法の研究などや病院見学をして実際に作業療法士の方が働いている場面などを見れたこともとても大きなことだと思います。今回学んだことをそのままにするのではなく、これからに生かしていけるように頑張りたいと思います。



平成22年度 活動報告

2010年度の学習環境整備費は看護学専攻の学習環境充実のために使用させていただきましたので、報告・紹介させていただきます。

看護学専攻には7領域あります。高額な研究や演習の物品も複数必要なところですが、まずは領域内で日頃の予算では充足しない学生の講義演習・実習の充実に必要なものから整備させていただきました。

耐久年数はとうに過ぎても大事に使用してきた物品がいよいよ破損し、交換の必要性が出てきたものもあります。80人の学生が看護師、保健師の二つのライセンスの取得と、さらに助産師コース専攻(20名)の学生のための学習環境の整備には様々な物品が必要です。下記以外で、安全帯(精神)、統計ソフトSPSS(地域)、DVD各種(小児、老年)等が整いました。

●オーバーベッドテーブル

長年使用していたものの足がぐらついてきたため複数新しくしました。(基礎成人実習室)





基礎看護学の
吸引の実習風
景です。



●羊水吸引器



●助産実習のための冷蔵庫



●救急カート



気管挿管セットをはじめ、救急蘇生セットが充実しました。(成人・基礎成人実習室)



助産実習の勉強中。産泊室の風景です。使用中の折りたたみテーブルが購入したものです。その他胎児モデル分娩キット、収納ボックスがそろいました。

●乳房疾患触診モデル



現在使用しているモデル人形に装着して使用できるものです。左は内側の構造です。

●電動自転車

在宅看護学実習や地域看護学実習の実習地まわりに使用します。昨今実習地確保が大変です。



●特別講演

平成22年6月26日、「脳性まひのリハビリテーション—まなざしからひろいあいへ—」をテーマに、熊谷晋一郎氏（東京大学先端科学技術センター特任講師・小児科医・「リハビリの夜」著者）の公開講演会を開催致しました。当事者としての経験や現在の活動などをお話いただきました。170名が出席し、リハビリテーションばかりでなく社会福祉全般などについて広く意見交換が行われました。



総会記録

平成23年度信州大学医学部保健学科同窓会総会議事録

日 時 平成23年6月25日(土)15時15分～16時15分

場 所 旭総合研究棟9F講義室A/B

出席者 寺田 克同窓会名誉会長・川上由行・柳澤節子・下里誠二・三好 圭・伊藤喜世子・寺澤文子・小穴こず枝・
亀子文子・羽山正義・征矢佳輔・白濱 零・塩澤 涼・赤羽美和・村山忠勇・平林敬史・亀谷博美

1. 保健学科同窓会会長川上由行挨拶
2. 保健学科同窓会名誉会長(寺田 克学科長)挨拶
3. 議長選出
羽山正義氏を選出した。
4. 平成22年度事業報告及び決算報告について
資料1-1により下里誠二幹事から事業報告があり、続いて資料1-2により柳澤節子幹事から決算報告があり承認された。
5. 平成22年度記念事業等特別積立繰越額について
資料2により柳澤節子幹事から報告があり承認された。
6. 平成22年度会計監査報告
資料3より寺澤文子監事から平成23年6月9日(木)に青木 朗監事と通帳・帳簿・証拠書類を確認したところ適正に処理されていた旨の報告があった。
7. 平成23年度会費納入状況報告書
資料4により柳澤節子幹事から説明があり、会費納入に対して更なる協力要請があった。
8. 平成23年度事業計画及び予算書(案)について
資料5-1により下里誠二幹事から事業計画の説明があり、続いて資料5-2により柳澤節子幹事から予算書(案)の説明があり承認された。
9. その他
なし。

平成22年度事業報告

1. 在校生の教育支援及び保健学科の運営補助

- 1) 学生図書購入
- 2) 学術国際交流推進(オーストラリア, カーティン工科大学短期留学プログラム)
- 3) 特別講演の開催
平成22年度保健学科同窓会総会特別講演
『脳性まひのリハビリテーションーまなざしからひろいあいへー』
熊谷晋一郎(小児科医・『リハビリの夜』著者)
平成22年6月26日(土) 13:00～15:00 保健学科311教室
- 4) 実習指導者連絡協議会開催補助
・検査技術科学専攻
・理学・作業療法学専攻
・看護学専攻
- 5) 卒業祝賀会補助
- 6) 卒業記念品の贈呈
・卒業式集合写真
・優秀生表彰記念楯
- 7) 就職活動支援
- 8) 入試広報活動補助
・キャンパス見学会補助
・各特別選抜試験および一般選抜試験補助
- 9) 学生課外活動支援
・新入生合宿研修補助
・松本ぼんぼん参加補助
・検査技術科学専攻スポーツ大会
・学生のボランティア参加の交通費補助
- 10) 学習環境整備
・看護学専攻: 吸引器、胎児モデル他

2. 保健学科同窓会分科会支援

- 1) 看護学専攻: アルプス会・桐の木会
- 2) 検査技術科学専攻: 臨嶺会
- 3) 理学療法学専攻・作業療法学専攻: 州嶺会

3. 保健学科同窓会の運営について

- 1) 同窓会ホームページの運営
- 2) 同窓会だより第8号の発行
- 3) 同窓会総会および役員会の開催
 - ①平成22年度総会の開催
平成22年6月26日(土) 15:15～16:15
保健学科311講義室
 - ②役員会の開催
平成23年6月16日(木) 18:30～20:30

保健学科第一会議室

③幹事会の開催

平成23年5月12日(水) 18:00～20:00

保健学科小会議室

・総会にむけての準備、計画

平成23年6月2日(木) 18:00～20:00

保健学科小会議室

・会計報告、予算(案)作成について

・総会の準備、計画

4) 同窓会事務局の運営

5) 信州大学同窓会連合会との連携

・平成22年7月10日(土)

文理学部同窓会会長 可知偉行氏を新代表として選出

1) 卒業生向け広報誌【信大NOW】の定期購読の案内を各同総会で会誌送付時に同封する。(年間購読料1000円＝郵送費実費)

2) 連合会への要望

①就業力育成事業への支援(特に1年生対象でその講師候補としてOB/OG紹介など)

②学生への経済的支援(奨学金設立など)

③課外活動支援(部室など整備支援など)

・平成23年2月16日(水) 幹事会

2月19日(土) 役員会の打ち合わせ

・平成23年2月19日(土)

1) 平成23年学生及び卒業生表彰候補者選考

kstmチーム信州(大学院工学系)、栗原夏佳(経済学部)

2) 卒業生向け広報誌【信大NOW】の定期購読申し込み状況

全学で227名申し込み(0.37%の申し込み率)【保健学科関係0名】

3) 連合会活動

①各同窓会報に学長の挨拶を掲載する

②就業力育成事業への支援方法を引き続き検討

③課外活動支援: 信州大学の横断幕作成

大会参加交通費の援助については次回検討

4) 信州大学同窓会連合会が信州大学同窓会として一本化する必要性に関する意見交換

案・・・信州大学開学70周年を目標として検討してはどうか

6) 信州医学振興会支援

平成22年度医学部保健学科同窓会決算書

収入

平成23年5月31日現在
(単位:円)

事 項	22年度予算額	22年度決算額	差 額
前年度繰越金	1,355,049	1,355,049	0
会 費(在校生)	1,235,000	1,235,000	0
会 費(新入生・3年次編入・大学院含む)	8,155,000	8,155,000	0
利 息	0	1,633	1,633
合 計	10,745,049	10,746,682	1,633

支出

事 項	22年度予算額	22年度決算額	差 額	
1. 在校生の教育支援及び 保健学科の運営費補助	・図書購入費	700,000	700,000	0
	・学術国際交流推進経費	700,000	700,000	0
	・特別講演会経費	100,000	12,790	87,210
	・実習指導者連絡協議会経費	150,000	105,736	44,264
	・卒業祝賀会経費	300,000	215,150	84,850
	・卒業生記念品代	190,000	148,800	41,200
	・就職活動支援	50,000	0	50,000
	・入試広報活動経費	220,000	168,701	51,299
	・学生課外活動経費	200,000	156,959	43,041
	・学習環境整備	2,400,000	2,385,201	14,799
	小 計	5,010,000	4,593,337	416,663
2. 保健学科同窓会分科会 (各専攻単位)運営費補助	・アルプス会・桐の木会	1,400,000	1,400,000	0
	・臨嶺会	880,000	880,000	0
	・州嶺会	900,000	900,000	0
	・上記振込み手数料	1,380	1,380	0
	小 計	3,181,380	3,181,380	0
3. 保健学科同窓会運営費	・同窓会ホームページ及び会報編集会議等	250,000	220,500	29,500
	・同窓会だより	400,000	378,210	21,790
	・同窓会総会等経費	160,000	165,660	△ 5,660
	・事務処理等人件費	640,000	640,000	0
	・通信費	40,000	33,360	6,640
	・消耗品	30,000	19,950	10,050
	・電気・電話使用料	30,000	26,667	3,333
	・信州大学同窓会連合会会費	70,315	70,315	0
	・信州医学振興会会費	50,000	50,000	0
	小 計	1,670,315	1,604,662	65,653
4. 予備費	883,354	0	883,354	
合 計	10,745,049	9,379,379	1,365,670	

収 入	10,746,682
支 出	9,379,379
差引残額(翌年度繰越額)	1,367,303

平成22年度委任経理金・記念事業等特別積立金繰越額

(単位:円)

1. 委任経理金						2. 記念事業等特別積立金				
事 項	21年度 繰越額	22年度内訳				事 項	21年度 繰越額	22年度内訳		
		振込金額	事務手数料8% 除いた金額	支出金額	22年度 繰越額			収 入	支 出	22年度 繰越額
図 書 購 入 費	80,118	700,000	644,000	500,000	224,118	記念事業等特別積立金	3,888,964		0	3,888,964
学術国際交流推進経費	2,767,276	450,000	414,000	917,891	2,263,385	利 息(8月)		500		3,889,464
大学院立上げ活動経費	770,770	0	0	0	770,770	利 息(2月)		322		3,889,786
特別講演会経費	472,645	0	0	101,740	370,905					
						計	3,888,964	822	0	3,889,786

平成23年度事業計画

1. 在校生の教育支援及び保健学科の運営補助
 - 1) 学生図書購入
 - 2) 学術国際交流推進(オーストラリア, カーティン工科大学短期留学プログラム)
 - 3) 特別講演の開催
 - 平成23年6月25日(土) 旭総合研究棟9階
 - 『古い時代-震災を生きるということ』
 - 伊藤英樹先生 宅老所「井戸端げんき」代表
 - 4) 実習指導者連絡協議会開催補助
 - 5) 卒業祝賀会補助
 - 6) 卒業記念品の贈呈
 - ・卒業式集合写真
 - ・優秀学生表彰用記念楯
 - 7) 就職活動支援 各専攻の就職支援活動状況の把握
 - 8) 入試広報活動補助
 - ・キャンパス見学会補助
 - ・各特別選抜試験および一般選抜試験補助
 - 9) 学生課外活動支援
 - ・新入生合宿研修補助
 - ・松本ぼんぼん参加補助
 - ・学生のボランティア参加等の活動支援
 - 10) 学習環境整備
 - ・大学院学生支援
 - ・学部生支援
2. 保健学科同窓会分科会支援
 - 1) 看護学専攻: アルプス会・桐の木会
 - 2) 検査技術科学専攻: 臨嶺会
 - 3) 理学療法学専攻・作業療法学専攻: 州嶺会
3. 保健学科同窓会の運営について
 - 1) 同窓会ホームページの運営
 - 2) 同窓会だより第9号の発行
 - 3) 同窓会総会および役員会の開催
 - ①平成23年度総会の開催
 - 平成23年6月25日(土) 15:15～16:15 旭総合研究棟9階
 - ②役員会の開催
 - 年1回5～6月
 - ③幹事会の開催
 - 4) 同窓会事務局の運営
 - 5) 信州大学同窓会連合会との連携
 - 6) 信州医学振興会支援

平成23年度医学部保健学科同窓会予算書

収入

平成23年5月31日現在
(単位:円)

事 項	23年度予算額	22年度決算額	差 額
前年度繰越金	1,367,303	1,355,049	12,254
会 費(在校生)	1,495,000	1,235,000	260,000
会 費(新入生・3年次編入生・大学院含む)	8,080,000	8,155,000	△ 75,000
利 息	0	1,633	△ 1,633
合 計	10,942,303	10,746,682	195,621

支出

事 項	23年度予算額	22年度決算額	差 額
1. 在校生の教育支援及び保健学科の運営費補助			
・図書購入費	800,000	700,000	100,000
・学術国際交流推進経費	700,000	700,000	0
・特別講演会経費	100,000	12,790	87,210
・実習指導者連絡協議会経費	150,000	105,736	44,264
・卒業祝賀会経費	350,000	215,150	134,850
・卒業生記念品代	160,000	148,800	11,200
・就職活動支援	50,000	0	50,000
・入試広報活動経費	200,000	168,701	31,299
・学生課外活動経費	300,000	156,959	143,041
・学習環境整備	2,400,000	2,385,201	14,799
小 計	5,210,000	4,593,337	616,663
2. 保健学科同窓会分科会(各専攻単位)運営費補助			
・アルプス会・桐の木会	1,500,000	1,400,000	100,000
・臨嶺会	860,000	880,000	△ 20,000
・州嶺会	820,000	900,000	△ 80,000
・上記振込み手数料	1,380	1,380	0
小 計	3,181,380	3,181,380	0
3. 保健学科同窓会運営費			
・同窓会ホームページ	80,000	220,500	△ 140,500
・同窓会だより	400,000	378,210	21,790
・同窓会総会等会議費	300,000	165,660	134,340
・人件費	640,000	640,000	0
・通信費	40,000	33,360	6,640
・消耗品	80,000	19,950	60,050
・電気・電話使用料	40,000	26,667	13,333
・信州大学同窓会連合会会費	70,315	70,315	0
・信州医学振興会会費	50,000	50,000	0
小 計	1,700,315	1,604,662	95,653
4. 予 備 費	850,608	0	850,608
合 計	10,942,303	9,379,379	1,562,924

同窓会役員

名誉会長：寺田 克 (医学部保健学科)	理事：検査技術科学専攻4名	理事：大学院(前期)1名
会長：川上 由行 (医学部保健学科)	塩沢 涼 (検査技術科学専攻学生)	征矢 佳輔 (博士前期課程院生)
副会長：亀谷 博美 (医学部附属病院)	赤羽 貴行 (安曇野赤十字病院)	大学院(後期)1名
理事：看護学専攻8名	川崎 健治 (医学部附属病院)	高橋 理沙 (博士後期課程院生)
三井 貞代 (医学部附属病院)	亀子 文子 (医学部保健学科)	幹事：奥村 伸生 (医学部保健学科)
伊藤喜世子 (医学部附属病院)	理学療法学専攻2名	下里 誠二 (医学部保健学科)
青柳美恵子 (医学部附属病院)	保木井雅恵 (理学療法学専攻学生)	柳澤 節子 (医学部保健学科)
赤羽 公子 (医学部附属病院)	杉田 勇 (諏訪中央病院)	横川 吉晴 (医学部保健学科)
三輪百合子 (長野県看護協会)	作業療法学専攻2名	監事：小池 聖子 (医学部附属病院)
阪口けさみ (医学部保健学科)	山下 桃花 (作業療法学専攻学生)	寺澤 文子 (医学部保健学科)
野澤 咲希 (看護学専攻学生)	井戸 芳和 (医学部附属病院)	事務局：清水 敏勝
相川真名美 (看護学専攻学生)		

信州大学医学部保健学科同窓会会則

信州大学医学部保健学科同窓会会則

第1章 総則

- 第1条 本会は、信州大学医学部保健学科同窓会(以下「本会」という。)と称する。
- 第2条 本会は、事務局を松本市旭3丁目1番1号 信州大学医学部保健学科内に置く。
- 第3条 本会は、会員相互の親睦を図るとともに、母校との連携を保ち、その発展に寄与することを目的とする。
- 第4条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行なう。
- 一 会員の親睦及び研修に必要な事項
 - 二 母校の発展に関する事項
 - 三 その他必要と認められる事項
- 第5条 本会は、必要に応じて各専攻等を単位とする分科会を置くことができる。
- 2 分科会の設置及び運営に関する事項は、理事会の承認を経て各分科会が定める。

第2章 会員

- 第6条 本会の会員は次のとおりとする。
- 一 正会員
 - イ 信州大学医学部附属助産婦学校、信州大学医学部附属衛生検査技師学校、信州大学医学部附属臨床検査技師学校の卒業生
 - ロ 信州大学医療技術短期大学の卒業生
 - ハ 信州大学医学部保健学科(以下「本学科」という)の在學生及び卒業生
 - 二 信州大学大学院医学系研究科保健学専攻博士前期課程及び後期課程(以下「本大学院」という)の在學生及び修了生
- 二 特別会員
 - イ 本学科教員
 - ロ 本学科元教員
 - ハ 前項以外の者で理事会の承認を得た者
- 第7条 会員が死亡または会員たる資格を喪失したときは、退会したものとみなす。

- 第8条 会員が、本会の名誉を傷つけ、または本会の趣旨に反する行為をしたときは、総会において出席会員の4分の3以上の議決により、これを除名することができる。
- 第9条 正会員は、細則に定める会費を入学時に納入するものとする。また、3年次編入生については編入時に4万円納入するものとする。ただし、退会または除名された会員が既に納入した会費その他の拠出金は返還しないものとする。

第3章 役員等

- 第10条 本会に次の役員を置く。
- 一 会長 1名
 - 二 副会長 1名
 - 三 理事 18名(看護8名;検査4名;理学2名;作業2名;大学院生博士前期課程1名、後期課程1名)
 - 四 幹事 若干名
 - 五 監事 2名
- 第11条 役員は、次の職務を行なう。
- 一 会長は、本会を代表し、会務を総括する。
 - 二 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。
 - 三 理事は、会員の代表として本会の運営に当たる。
 - 四 幹事は、本会の実務に当たる。
 - 五 監事は、本会の会計を監査し、総会に報告する。
- 第12条 役員は、次により選出又は委嘱する。
- 一 会長は、総会において正会員の中から選出する。
 - 二 副会長は、会長が正会員の中から推薦し委嘱する。
 - 三 理事は、正会員の中から各専攻毎に選出し委嘱する。
 - 四 幹事は、会長が委嘱する。
 - 五 監事は、総会において正会員の中から選出する。
- 第13条 役員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 2 補欠による役員の任期は、前任者の残任期間とする。
 - 3 役員は、任期が満了しても後任者が就任するまではその職務を行なうものとする。

第4章 名誉会長及び顧問

- 第14条 本会に名誉会長を置き、本学科の学科長を推戴する。
第15条 本会に顧問を置くことができる。顧問は、総会の議を経て会長が委嘱する。
2 顧問は、重要事項について会長の相談に応ずる。

第5章 会議

- 第16条 総会は、原則として毎年1回開催し、次の事項を審議決定する。
一 事業及び決算報告
二 事業計画及び予算
三 会則の制定及び改廃
四 役員を選出
五 顧問の推挙
六 その他の必要事項
2 会長は、総会を召集し、理事会の議を経て前項に定める事項を提案する。
第17条 会長は必要と認めたととき、臨時総会を開催することができる。
第18条 総会の議長は、出席会員の中から選出する。
第19条 総会は、日時、場所、付議すべき事項等を示して召集する。
第20条 総会に出席できない会員は、あらかじめ文書をもって意見を表示することができる。

- 第21条 総会の議事は出席会員の過半数で決し、可否同数のときは議長がこれを決する。
第22条 総会は、議事録を作成し、これを保存する。
第23条 理事会は、会長、副会長、理事及び幹事によって組織する。
第24条 理事会は、会長が必要と認めたととき、又は理事の5分の2以上の要求があったときに開催する。
第25条 理事会は、会長が召集し、議長となる。
第26条 理事会の議事は、出席者の過半数で決する。
第27条 理事会は必要に応じて委員会を置くことができる。

第6章 会計

- 第28条 本会の経理は、会費及び寄付金その他の収入をもって充てる。
第29条 本会の会計年度は、毎年4月1日から始まり翌年3月31日に終わる。

附則

- この会則は、平成15年4月1日から施行する。
この会則は、平成16年4月1日から施行する。
この会則は、平成19年4月1日から施行する。
この会則は、平成21年4月1日から施行する。

信州大学医学部保健学科同窓会会計細則

- 同窓会費は6万円とし、本学本学科入学時に一括納入することを原則とする。また、3年次編入生及び修士大学院生については、編入時もしくは大学院入学時に4万円を納入するものとする。ただし、本人からの申し出があった場合は、同窓会理事会が分割払いを認めることができる。
- 本学科同窓会費6万円の使用内訳は、次のとおりとする。ただし、この枠を越えて使用する必要が生じたときは、同窓会理事会の承認を必要とする。
 - 在校生の教育支援及び医学部保健学科の運営に関すること。 3万円
 - 保健学科同窓会分科会(各専攻単位)の運営に関すること。 2万円
 - 医学部保健学科同窓会としての運営に関すること。 1万円また、3年次編入生、博士前期課程及び博士後期課程の大学院生の同窓会費4万円の使用内訳は、次のとおりとする。ただし、この枠を越えて使用する必要が生じたときは、同窓会理事会の承認を必要とする。
 - 在校生の教育支援及び医学部保健学科の運営に関すること。 1万5千円
 - 保健学科同窓会分科会(各専攻単位)の運営に関すること。 2万円
 - 医学部保健学科同窓会としての運営に関すること。 5千円保健学科同窓会会員が博士前期課程および博士後期課程に入学した場合は、(1)在学生の教育支援及び医学部保健学科の運営に関して1万5千円を納入すること。
- 金融機関への振込手数料は、会員の負担とする。
- 幹事代表者名で金融機関に同窓会の口座を設け、会計担当幹事が通帳・印鑑を管理する。
- 同窓会費の徴収は、入学時に行ない、徴収後は速やかに同窓会費支払者リストを作成する。
- 会計担当幹事は、会計年度終了後に速やかに決算報告書を作成し、監査を受ける。
- 本細則の改正は、同窓会総会で行なう。

附則

- この細則は、平成15年4月1日から施行する。
この細則は、平成16年4月1日から施行する。
この細則は、平成19年4月1日から施行する。
この細則は、平成21年4月1日から施行する。

編・集・後・記

節電と熱中症対策が叫ばれた夏を何とか乗り切りました。平成23年度から同窓会だより編集業務担当となりました。忙中(忘中?)原稿依頼等、作業が万事遅かったため、関係各位にご迷惑をおかけしました。蝉の声とコオロギの声を伴奏に、季節を感じながら編集をしていました。同窓会業

務に携わってみると、学生生活等に広く関わっていることを改めて感じています。これから、より伝わりやすい広報だよりの作成を心がけてゆきたいと思います。

保健学科 Y. Y.